

「うべ・未来共創」指針

～誰かが創る宇部じゃなく、みんなで創る宇部に～

宇部市

2022年12月

なぜ共創が求められるのか

激変する社会経済情勢

人口減少、少子高齢化、過疎化、財政難等、社会課題は複雑化し益々増大していく中、SDGs、GX、ESG、DX、WEB3.0、ダイバーシティ（多様性）の時代へと変化しています。

行政主導型から地域経営へ

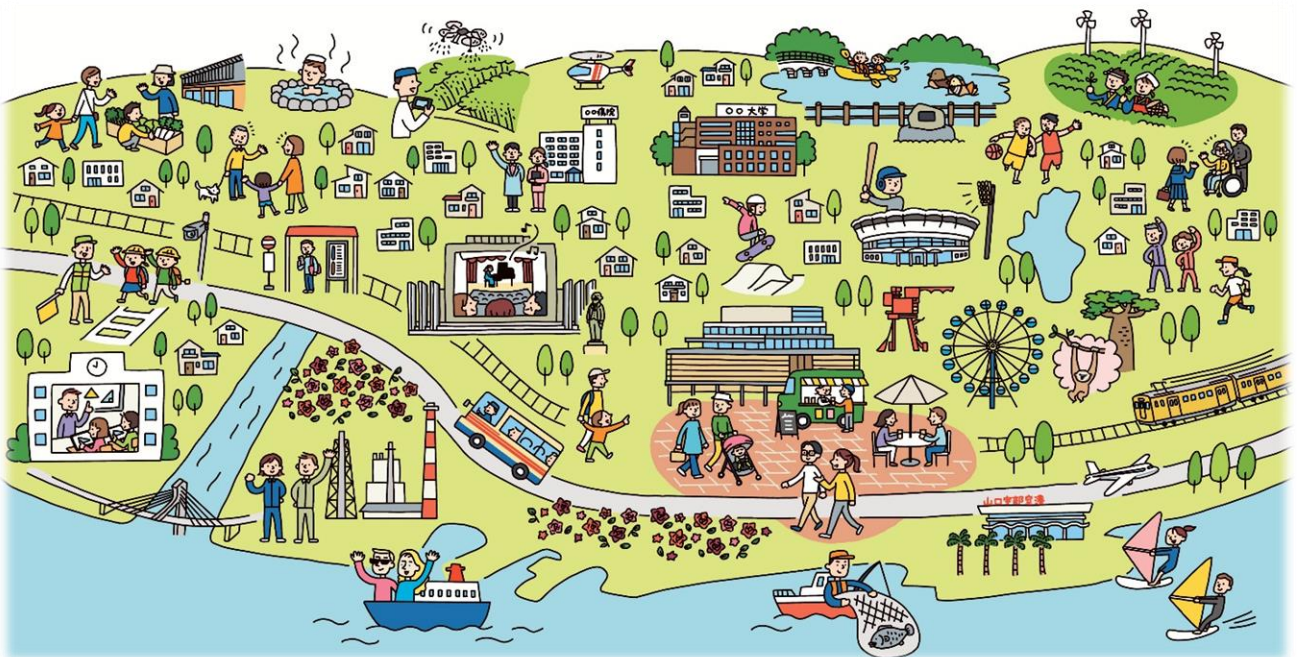
地域課題や市民ニーズは、今後ますます複雑・多様化していきます。今後も将来にわたり持続可能なまちづくりを実現するためには、これまでの「行政主導型」ではなく、そこに暮らし関わる市民、団体、企業、学校、地域、行政などの様々な主体がそれぞれの役割を担い、みんなで地域を経営していく「地域経営」の考え方が求められています。

ソーシャルデザイン・ソーシャルイノベーション

複雑化する社会課題・地域課題の解決には、社会や地域を構成するあらゆる要素を含めた解決方法（ソーシャルデザイン）と、それを実現する革新的な解決手法（ソーシャルイノベーション）を生み出していくことが求められます。

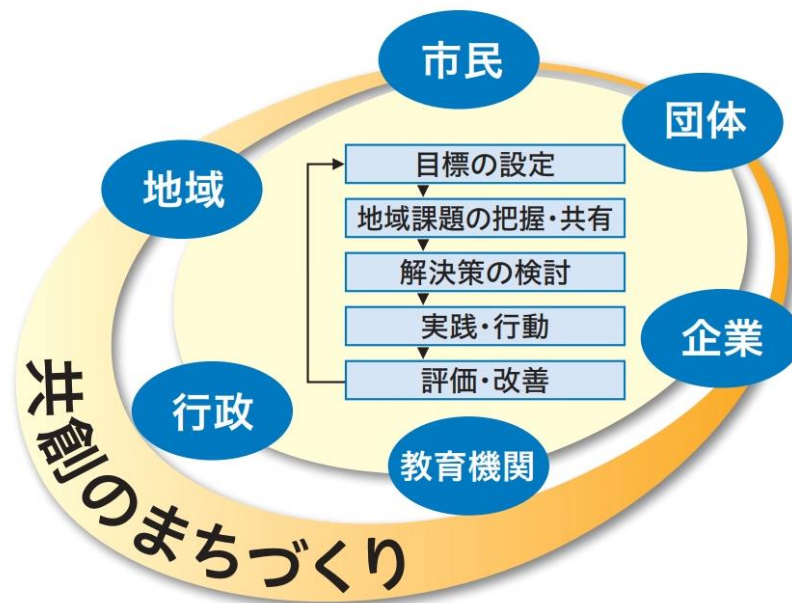
みんなで創る宇部「共創によるまちづくり」

そのためには、これまでの「協力・協働」を基本としつつ、地域に関わる全ての人々が「まちづくりのエンジン」となり、ビジョン・課題を共有し、前例主義にとらわれない発想や意見を出し合いながら、その対策を考え、ともに新しい価値を生み出す「共創」のプロセスにより、まちづくりを行う必要があります。



共創とは

これまでの「協働」を基本としつつ、市民や企業・団体、教育機関、行政などの多様な主体が、目標設定の段階から連携し、地域課題を共有するとともに、様々な意見を出し合いながら、その対策を考え、ともに新しい価値を創造していく方式です。



「協力」から「協働」、そして「共創」へ

共創（Co-Creation）とは

多様な立場のステークホルダーがゼロからビジョン・課題を共有し、解決の方策を対話しながら協働し、ともに新しい価値を生み出していくこと。

協働（Collaboration）とは

異なる強みを持つ主体が、共通の目的のために役割を分担し、協力によって成果を共有すること。

協力（Cooperation）とは

行政主導の事業・プロジェクトへ参加すること。

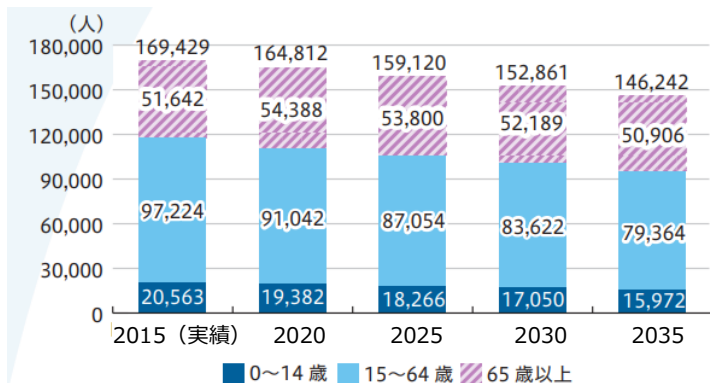
共創の効果

- ①質の高い公益サービスの提供
- ②地域と未来を担う人材の育成
- ③新たなビジネスチャンスの創出
- ④宇部らしいまちづくりの推進

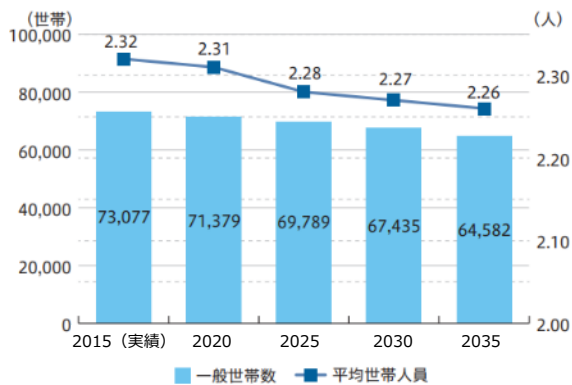
宇部市の現状と見通し

人口推計

1995年の182,771人をピークに減少へ転じ、2020年までの25年間で約20,000人が減少。今後も減少傾向が続く見通しです。



年齢区分別将来人口推計
(第五次 宇部市総合計画)

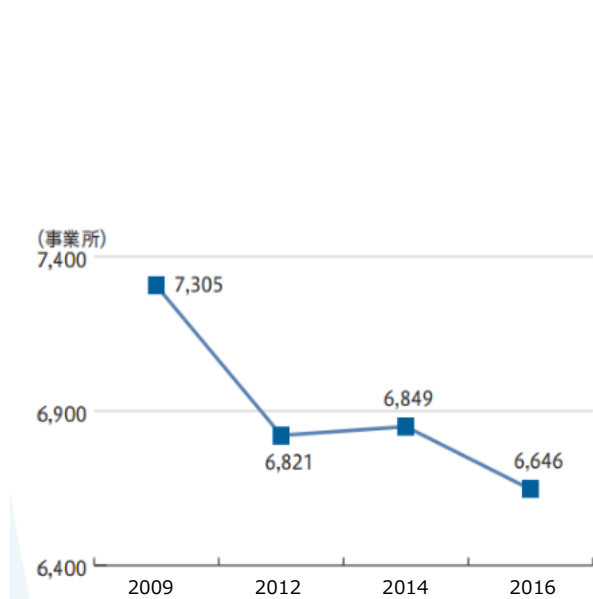


一般世帯数及び平均世帯人員
(第五次 宇部市総合計画)

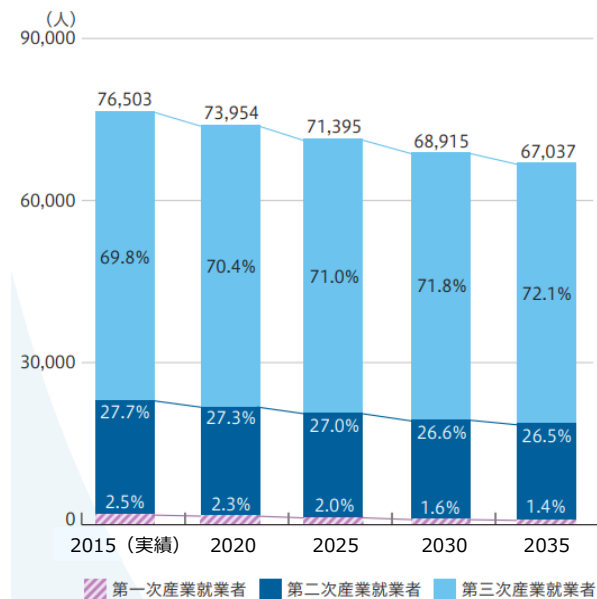
産業推計

事業所数及び従業者数はともに減少傾向にあり、2009年から2016年までの7年間で、事業所数は約660事業所減少しています。

就業人口は、2015年から2035年の20年間で約10,000人の減少が予想されており、産業活動の停滞が懸念されています。



事業所数の推移
(経済センサス)



将来就業人口推計
(第五次 宇部市総合計画)

宇部市の共創への歩み

宇部市は「皆が心を一にし、共に栄えていこう。」という「共存同栄・協同一致」を理念に掲げ、これまで戦後の復興、ばいじん汚染等の社会課題を「産官学民」が一体となった「宇部方式」で乗り越えました。

その後も活発なボランティア・NPO活動、地域コミュニティ活動などに取り組むことで、強い郷土意識、強固な共同体的精神を育んできました。

先人たちが培った精神を受け継ぎ、これまで取り組んできた「協働」を進化させることで、新しい宇部の未来を共に創造していく「共創のまちづくり」を進めていきます。



共創の進め方

宇部市の「共創のまちづくり」の姿勢・あり方として、次の4つの原則に沿って推進していきます。

① 「対等で双方向な対話」の原則

共創を進めるには、お互いの思い、立場、夢等を理解するため、対等で双方向な対話が不可欠です。



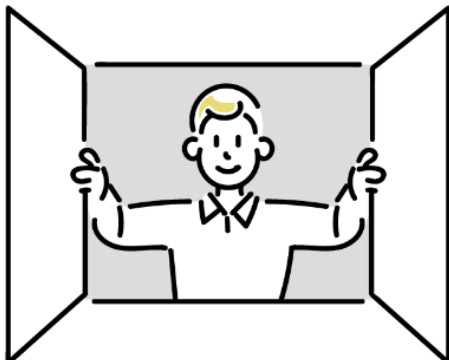
② 「ビジョンと課題の共有」の原則

共創を始めるには、ビジョンと課題を共有し、Win-Winな関係を築くことが不可欠です。



③ 「オープン化」の原則

共創を効果的に進めるには、取組を見える化し、誰でも参加できるオープンな環境、関係づくりが不可欠です。



④ 「自分事」の原則

共創を楽しく進めるには、他人事ではなく自分ごと・みんなごとにするのが不可欠です。



まちづくりは 市民のみなさんとともに 誰かが創る宇部じゃなく、みんなで創る宇部に。

「第五次宇部市総合計画」のスタートにあわせ、市民のみなさんと共に進める今後10年間のまちづくりへの想いを込めたロゴとコピー（まちづくりへの思いを表したメッセージ）を作成しました。まちづくりへの想いを市民のみなさんと共有、進む方向を同じくし、新たな未来への実現に向けて、「共創によるまちづくり」を進めていきます。

UBE 宇部市 未来を彫刻するまち

新しいなにかを創る。
宇部にはそんなチカラがあると思うのです。

炭鉱から産業を発展させた情熱。
自然や生き物を大切に作る気持ち。
まちじゅうを彫刻でいっぱいにしちゃうアイデア。
世界をあっと思わせる才能。

それはまるで、創造力によって
新しいものをつくりだす「彫刻」のよう。

この宇部に生きるすべての人が持つ、
ひらめきと声がひとつになれば、
きっとすごいことができるはず。

もっと暮らしやすいまちにするために、
いつか帰ってきたくなるまちにするために、
誰かが創る宇部じゃなく、みんなで創る宇部に。

さあ、ともに次の100年を創っていこう。
未来を彫刻するまち、宇部です。

Logo ロゴ

- …… 未来に向かってまちを切り拓いてく「宇部のエネルギー」を表現。彫刻「蟻の城」をイメージした赤色を基本色としています。

●…… Catch copy キャッチコピー

宇部市に引き継がれてきた開拓精神と創造力を宇部市の象徴となる「彫刻」と重ね、意志を持って共に未来を創造していくための合言葉として「未来を彫刻するまち」という言葉で表現しました。

●…… Body copy ボディコピー

キャッチコピー「未来を彫刻するまち」に込めた想いを表現したものです。宇部市が大切にしてきた「共存同栄」の精神（こころ）や宇部市をイメージする言葉やこれまでの歴史、目指すまちの姿を表しています。
※ショートバージョンもあります。

市民のみなさんも
ご活用ください！

詳しくは、市ウェブサイトへ



<参考>2022 年度の取組事例

常盤通りウォークブル化／旧山口井筒屋宇部店跡地利活用

中心市街地のにぎわい創出に向けて、多様な主体と対話を重ね、常盤通りを中心としたウォークブルなまちづくりに取り組むとともに、旧山口井筒屋宇部店跡地の利活用についても、民間事業者との対話を重ね、民間事業者からの事業提案による公民連携を軸に進めています。



宇部新川駅 多目的トイレ整備

宇部新川駅周辺に誰もが安心して利用できる公衆トイレが少ないという市民の声を受け、新たな多目的トイレの整備を進めています。整備にあたっては、地域共生社会の実現に向けたバリアフリー化に加え、魅力ある機能や空間の整備など、中心市街地のにぎわい創出の観点により取り組むこととし、次代を担う建築家である山口大学の学生にトイレ及び周辺の設計アイデアを提案していただきました。



船木地区エリアマネジメントプラン「船木の木」

楠庁舎移転後の跡地を中心とした船木地区について、地元住民や事業者等の皆さまとともに持続可能な地域づくりを目的としたエリアマネジメントプランを策定。地域活性化に向け取組を実施しています。



うべ・未来共創プラットフォーム

宇部市、産業界、大学等が一体となって、地域の課題を共有し、その解決や、人材の育成を図る「うべ・未来共創プラットフォーム」を設立しました。地域課題やニーズを共有し、産学が持つ知識、技術、人材を活用した共創の場を創出します。



宇部市成長産業推進協議会

本市の強みを最大限に活かし、次代を担う成長産業の創出と育成を進めるため、2021年5月に産学公金からなる「宇部市成長産業協議会」を立ち上げ、医療・健康や環境・エネルギー、宇宙産業、DXなどの次世代技術に関連する分野での起業や研究開発・事業化に向けた取組を積極的に支援しています。



地域計画

各地区の住民が主体となり、自分たちが住んでいる地域の現状、将来を考え、地域課題の解決や地域の活性化、魅力の創出などに取り組む地域活動の基本となる「地域計画」を策定し、地域と様々な主体の連携による、元気で安心できる域づくりを推進しています。



市政懇談会

市長と市民が直接、意見交換を行う場として開催しています。地域や各種団体、高校生等から意見や提案をお聴きし、課題を共有するとともに、様々な意見を出し合いながら課題解決に向けて取り組んでいます。





宇部市総合政策部連携共創推進課

〒755-8601 宇部市常盤町一丁目7番1号
電話 : 0836-34-8891
Eメール : co-creation@city.ube.yamaguchi.jp